

今年度、北海道小学校長会の会長を務めることになりました札幌市立旭小学校長の吉田信興でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年度の役員を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。北海道小学校長会は、昭和32年の発足から64年目を迎えた伝統ある組織であります。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念の下、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的として、長きにわたって活動を行ってまいりました。今後も、このような伝統を柱に、全道980名の会員の皆様と力を合わせながら努力を積み重ねてまいりたいと考えております。

北海道小学校長会は今年度も、「北海道教育の質の向上を目指し、教育課題に正対して取り組む校長会」を目標に、諸活動の一層の充実を図ります。校長会の使命は、各学校の「教育の質の向上」にあると言えます。そのためには、校長の明確なビジョンと鋭い時代感覚の下、創意ある教育活動と学校組織の活性化を図り、子どもの成長の姿で教育活動全体を評価・改善していく粘り強い取組が必要です。校長が「教育の質の向上」という観点を常にもち、教育改革や本道の教育課題に正対できる学校経営を実践していくために、道小は、各学校が教育改革や教育課題を踏まえた創意ある教育活動が推進できるよう、学校現場の視点での実践交流や意見表明、実効性のある要望活動を行っていききたいと考えております。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により、学校現場は2か月間の休業という、これまで経験したことのない状況から始まりました。その間、失った授業時数は、長期休業や土曜を使うなどして授業を行い、取り戻すことができました。また、新しい生活様式が示され、数多くの制約の中で、「今、何ができるのか」と各学校で工夫し、教育活動を進めてまいりました。

それから1年間が経過しても、新型コロナウイルスは姿を変異しながら感染を拡大させており、終息が見えておりません。私たちはwithコロナの中で感染防止対策を十分に行いながら、教育活動を推進するため、柔軟な教育課程を作成したり、臨時休業を想定したICT環境の整備をしたり、学校行事の在り方を検討し、ニューノーマルを構築したりするなどの取組が、現在、学校経営上の第一の課題となっております。

さらには、昨年度に全面実施となった学習指導要領の中核を成す「主体的・対話的で深い学び」を視点とする授業改善を定着させることが第2の課題です。

第3には、時期を同じくして中教審から答申のあった「令和の日本型学校教育の構築」を具現化し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という学びの本質に立ち返る必要性と「同調圧力からの解放」「正解主義からの脱却」「二項対立からの離脱」といったこれまでの学校のあたり前を見直す教育観の転換です。

第4にはGIGAスクール構想の前倒しによって整備された一人一台端末の活用です。授業での活用や家庭での活用が学校差、地域差なく行われることが重要です。しかしながらすでに昨年度に整備された地区もあれば未だに配られない地区もあるという「時間的格差」、教師用PCが未整備であったり、初期設定を教員に課せられている地区があったりする「整備内容の格差」、LTEで導入した地区もあれば、高速大容量通信環境が整っていない地区もある「通信環境の格差」など、様々な格差が全国的に生じており、大きな課題となっております。

第5には学校における働き方改革の推進が上げられます。北海道は学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」(第二期)が出され、目標達成の数値化が示されています。北海道は一年単位の変形労働時間制の導入を決定しました。果たしてその制度を活用できるだけの働き方改革が進むのか

が今後の大きな課題と言えます。

第6には教員の質の向上と人材の確保です。教員の絶対数が不足しています。そのような中、1学級35人の少人数学級制が導入され、来年度からは高学年の教科担任制が始まります。教員採用試験の在り方を見直したり、教育免許更新制の抜本的な見直しを検討されたりするなど、人員の確保のため、様々な手法がとられておりますが、教員の「質」と「量」の課題はなかなか解消されないままです。

このような課題が山積する中、道小は次の5点について重点的に取り組む所存です。

1点目は、地域格差のない教育条件の整備を目指すことです。昨年度、新型コロナウイルス感染拡大のため、全国一斉の休校措置がとられ、現場には大きな混乱が生じました。全道会長研修会の書面開催に向けて行った調査結果や文教施策懇談会・各課懇談会に代わるテレビ会議で各地から出された声をまとめると「地域格差」が浮き彫りになりました。特に広い北海道をつなぐWeb環境の未整備が露呈したのです。GIGAスクール構想の前倒しにより、ほぼすべての学校に児童一人一台の端末が整備され、それに伴いWeb環境も順次整備されるなど、昨年度の後半からは「地域格差」が縮まるための条件が整い始めています。しかし教育活動を推進するための人員の不足など課題も多くあります。20地区の校長会と連携を密にしながら状況を定期的に把握し、エビデンスを得て国や道教委へと実態を伝え改善への要望をしていきたいと考えます。

2点目は主体的・対話的で深い学びの授業改善の定着化です。学習指導要領の全面实施と並行するように新型コロナウイルスが感染拡大したことや中教審答申「令和の日本型学校教育の構築」での「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示され、学校には一人一台端末が入ってきたことなどが要因で「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が疎かにならないようにし、定着化を図ります。一人一台端末を活用しながら、個を主体とした学びを進めるとともに、独りよがりにならないために多様な他者と協働的に学び、そして個の発展につなげていくという学びのスタイルは「主体的・対話的で深い学び」の授業の中で開花すると考えます。そのために私たち校長は自らが学び続け、研鑽に励む職能団体であることを大切にしていきたいと考えます。

3点目は学校における働き方改革の積極的な推進です。各学校では教育課程全般を見直したり、事務作業の効率化のためのICT機器を活用したり、専科教員の導入、外部人材を活用したりするなど創意工夫をしながら取り組んでいるところです。しかし、まだ十分な成果を上げているとはいえません。子どもと向き合う時間を確保したり、きめ細かな指導を行ったりするためにも、私たちは働き方改革を積極的に推進いたします。道教委が改訂をした北海道アクション・プラン（第二期）の工程表に則り、手引きRoadを活用しながら、着実に働き方改革を進める必要があります。特に6つの重点が示されておりますので、全教職員で共通理解を図り、実践を重ねて参りたいと考えます。

4点目は教員の質の向上です。「個別最適な学び」のためには、子ども一人一人を大切にした教育の実践、とりわけ子ども一人一人の「課題」や「思い願い」を生かす授業を行い、子ども一人一人の取組を評価し、指導・支援するといった「授業力」「指導力」が教員に求められます。また、全国的に「わいせつ教員」への厳しい目が向けられています。わいせつに限らず、体罰、個人データの紛失等、教員としてあってはならない服務規律違反が後を絶ちません。各学校においてはこれまで以上に教員としての資質向上のための校内研修や校外研修を充実させるとともに、教員の心に届く、心に染みる言葉がけを継続しながら、質の向上に努めることが不可欠と考えます。

最後5点目はwithコロナの研修会、研究大会を目指すことです。道小としましては、令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、活動を進めてまいります。「安全に開催できないから会期中止」ではなく「会合しても安全に開催できる可能性」を積極的に探り、一步また一步と通常の状態へと前進させたいと思います。私たちは昨年度の後にはどの地区ともWeb会議をできるようになり、形の上では「研修会」を行うことができました。しかし、寄せられた声の中では「オンラインで聞いていても頭に入ってこない」「休憩時間にご挨拶をしながらの立ち話に参考になる情報が多

い」という会同を望む声も多くあります。したがって、道小の研修活動の中核をなす第64回道小教育研究石狩・千歳大会は、新型コロナウイルスの感染状況を冷静に見極めつつ、会同による研究大会を目指します。コロナ対策として例年よりも少ない参加人数での開催や感染対策を万全に行うなどして、実り多い大会となるよう、石狩管内小中学校長会を中心に、道小の会員全員の力を結集していきたいと思っております。

結びになりますが、全国一広いこの北海道に今年は980人の校長の仲間がおります。そして、地域特性や自然環境が大きく異なり、また各地区の抱える実情も様々な中で20の校長会が、北海道の子どもたちを育てようという共通の思いで、日々の活動を進めていることと思っております。ぜひ、今年も、北海道の子どもたちを、私たちみんなの手で育てるという共通の思いで、教育活動を進めていきたいと思っております。

そのために各地区校長会が道小という組織を通して、今後も、大同団結していくことが大切であり、それが全国連合小学校長会の活動の充実にもつながっていくと確信しております。

これからも、この道小という組織を活性化させるとともに、北海道教育委員会、北海道中学校長会、北海道PTA連合会、民間教育団体等の教育関係諸団体などとも連携を図りながら、「未来を見据え、チーム北海道として進む道小」として北海道教育の質の向上に努め、令和3年度の第一歩を踏み出していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。